

ひきゅう 貔貅の伝説

「貔貅」（ひきゅう）はまたの名を「天禄」、「辟邪」とも言う。伝説によれば貔貅は龍の9子の内の第9番目の子で、雲・霧に乗ることができ、雷に号令をかけ、雨を晴天にすることができる。邪気を避けサツを封じ、鎮宅の威力を発揮する。龍の9子はそれぞれ異なる神通力を持ち、貔貅は父の何倍もの威力を持ち、大きな口、「金蟾」のような容貌、麒麟のような鱗をもつなど、獣の良いところが備わっている。口はあるが、お尻がないため、飲み込んだものは外に出さない。八方の財を招き、財を貯める事ができる。入ることができるが、出さないという特異な神通力をもつ。

伝説によると、貔貅が天の掟を破ったため、玉皇大帝は貔貅に「食べても良いが、排泄してはならない」罰を与えた。これによって貔貅は財を食し、4方の財を受け入れる、お腹は財を入れる巾着であり、同時に権力運を増進させるようになった。多くの中国人が貔貅のお守りを身につけるのはそのためである。後に人々は風水に用いるようになり、福を呼び財運をあげるために用いるようになった。貔貅は凶暴な瑞獣であり、雌と雄とに分けられ、雄を「貔」、雌を「貅」と言った。ただし、今に伝えられるようになってからは雌雄の区別はなくなった。

昔の伝説によって貔貅は招財、宝を聚めるといった表意があるため、人々に称賛され渴望されるようになった。古より、皇帝によって招財の瑞獣とみなされており、朝廷の財政を守るため、歴代の朝廷は玉石で彫刻された貔貅を財政部門の門前に置き、山河が守られ、国安定し民が安心して、招財及び末永く財源が豊かであることの象徴とされた。

昔は、貔貅を私蔵すると盗みの罪で問われた。朝廷の官吏や地方の富豪は自身の生涯と代々の栄華のため、盗みの罪の恐れがあるにもかかわらず、玉石の貔貅を隠し持った。このため、昔から貔貅は私蔵されたにもかかわらず、公には隠されていたため、民間ではあまり知られることはなかった。

多くの人が貔貅を「皮貅」と書き間違えている。漢書「西域伝」には以下のような記述がある。

「[烏戈山離国には桃拔、獅子、尿牛がいる]。孟康は注して曰く：[桃拔、またの名を符拔、鹿のような尾、角一つのを天鹿（天禄）と呼び、角二つのを辟邪と称す]」辟邪というのは貔貅のこと。のちに角が一つ、角が二つの区別はなくなり、ほとんど角一つのものが作られるようになった。

また、別の説で：南方ではこの瑞獣を”貔貅”と呼び、北方では依然として”辟邪”と呼ばれた。”天禄”に至ってはまれにしか用いられない。またある人は”怪獣”、”四不像”など呼んだが、時代とともに貔貅の形は統一されて、短い翼、二つの角、巻き尾、ヒゲは胸の前あるいは、背中とつながっており、飛び出た目、長い牙となった。現在見られる貔貅の多くは一つの角、長い尾を持っている。

そのほか、それぞれの時代にも記録があり、地域と年代の違いによって、古書籍の複印本には貔、貔貅、貂、獬、白豹あるいは白熊など異なる呼び名がある。

【史記五帝本紀】記載「黄帝には熊氏がおり、熊、ヒグマ、貔、貅、虎を調教し、もって炎帝と阪泉之野にて戦った」；

【尚書】 虎のごとく、貔のごとく、商の郊外に生息する；

【詩經】 曰く、貔の毛皮を献じ、珍奇な貢物と説明した；

【山海經】 記「熊に似て、黒白の獣、銅や鉄を食す、邛崃山の巖道梁（現在の四川省滎經県）の南に産する；

【爾雅】 曰く「熊に似て、黒白、銅や鉄および竹を食す、四川省に生息する；

【礼記】 曲礼篇の記載では貔貅または執獣と呼ぶ、とても獠猛；

【列子】 天瑞篇の記載では、漢人は白豹と呼び、南方の人は獬と呼ぶ。

原文：

貔貅又名天祿、辟邪，傳說貔貅是龍生九子的第九子，能騰雲駕霧，號令雷霆，降雨開晴，相傳有辟邪擋煞、鎮宅之威力。龍生九子，神通不一。其子貔貅，勝父千倍，長大嘴，貌似金蟾，披鱗，甲形如麒麟，取而獸之優，有嘴無屁股，吞萬物而不瀉。可招八方財，可聚寶，只進不出，神通特異。

傳貔貅因為觸犯天條，玉皇大帝罰他只許吃不許拉，所以貔貅是以財為食的，納食四方之財，肚子是個聚財囊，同時催官運，現在很多中國人配戴貔貅的玉製品正因如此。後來人們用於風水學上，用作祈福納財。貔貅是一種兇猛瑞獸，而這種猛獸分有雌性及雄性，雄性名為"貔"，雌性名為"貅"，但現在流傳下來都沒有分為雌雄的了。

故而古代傳說中貔貅有招財聚寶之象而廣為人間所稱頌而渴求。自古以來，都被皇帝視為招財異獸，為鞏固朝廷財政，歷代都有朝廷專用玉石雕刻的貔貅置於財政府門前，已示江山永固，國泰民安，招財益壽及兼有千秋百世財源廣進之吉祥象徵。

在古代私藏貔貅會被認為有劫財竊寶之殺頭之罪的，朝廷官宦及地方富豪為終身之榮耀而獲百世之榮華富，也不怕因私藏貔貅有被貔貅殺頭之嫌而私下收藏玉獸。可見自古以來私藏玉獸貔貅歷來都是秘而不宣的，這可能也就是一直以來，民間很少知道有玉獸貔貅的原因之一吧！

很多人把"貔貅"誤寫成"皮貅"。在漢書【西域傳】上有一段記載：[烏戈山離國有桃拔、獅子、尿牛]。孟康注曰：[桃拔，一日符拔，似鹿尾長，獨角者稱為天鹿（天祿），兩角者稱為辟邪。]，辟邪貔貅了。後來再沒有分一角或兩角，多以一角造型為主。

另一種說法是：在南方，一般是喜歡稱這種瑞獸為"貔貅"，而在北方則依然稱為"辟邪"。致於"天祿"則較為少人用以稱這類瑞獸，還有些人將它稱為"怪獸"或"四不像"等但經過朝代的轉變，貔貅的形態比較統一，如有短翼、雙角、卷尾、鬚須常與前胸或背脊連在一起，突眼，長獠牙。到現在常見到的貔貅多是獨角、長尾巴。

另外在各朝代都有記載，因地區與年代的不同，有古籍複印本 貔、貔貅、貊、獬、白豹或白熊等不同的稱呼。

【史記五帝本紀】記載「黃帝有熊氏教驅熊羆貔貅虎，以與炎帝戰於阪泉之野」；

【尚書】記有如虎如貔，產于商郊；

【詩經】曰獻其貔皮，說明牠是珍貴的貢品；

【山海經】記「似熊，黑白獸，食銅鐵，產於邛崃山巖道梁（今四川榮經縣）南」；

【爾雅】曰似熊，黑白駁，能舐食銅鐵及竹骨…出蜀郡；

【禮記】曲禮篇 說，貔貅又叫執獸，很凶；

【列子】天瑞篇記 載，漢人稱白豹、南方人叫獬。